かいづか文化財だより

# テンプス TEMPUS

2018年（平成30年）66号

## もくじ

明治時代の石造物
加治・神前・畠中遺跡の調査
古文書講座－市内に残る身近な古文書－
水間街道沿いの道しるべ　その７
／特別展の案内
参加者募集のお知らせ
文化財講座・セミナー

**企画展「150年の時を超えて －明治時代の貝塚－」**

貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館２階）

＜平成30年10月21日（日）まで開催＞

# 明治時代の石造物

**今年は明治元年から150年という節目を迎え、貝塚市郷土資料展示室でも、現在企画展を開催しています（表紙写真）。今回のテンプスでは市内に残る明治時代の石造物にスポットを当て、製作された理由などを明らかにします。**

## ◆物部氏ゆかりの人物を顕彰する捕鳥部万（ととりべのよろず）の道標

紀州街道と津田川が交差する地点にかかる岸見橋南端の交差点に高さ1.8mほどの道標が建てられています。この場所は紀州街道から岸和田市の阿間河滝（あまがたき）方面に通じる街道が分岐する地点です。

この道標は、1871（明治４）年正月に建てられたものです。正面に「忠臣捕鳥部万墓并（ならびに）犬塚　是（これ）ヨリ三十丁」と刻まれ、目的地にあたる捕鳥部万の墓と犬の墓までの距離が30丁（＝約3.3km）先にあることを示しています。左側に和歌があり、右側に「発起」人１人と「補助」の３人の名前が刻まれています。「補助」の内の「津田租（つだはじめ）」は津田村、「塚本太二右衛門」は八田村（現在の岸和田市八田町）のそれぞれ庄屋を務めていました。

捕鳥部万は、飛鳥時代の人で、物部守屋大連（もののべのもりやおおむらじ）の資人（とねり＝特定の貴族の警固や雑役などに当たる人）でした。『日本書紀』用明天皇条には、587（用明２）年、守屋の死後、万の妻の実家があった茅渟県有真香邑（ちぬのあがたありまかむら 現在の貝塚市久保を含む津田川中流域一帯と推定される）に逃れ、朝廷軍を相手に大奮戦し自害したことが記されています。また、万が自らのことを「天皇之楯（たて）」と言ったことが記されており、このことが道標にある「忠臣」とされる理由だと考えられます。江戸時代に『日本書紀』などの研究が進む中、歴史に埋もれていた捕鳥部万が忠臣として再評価されていったことでしょう。

参詣者が地元で大切に守られてきた捕鳥部万の墓と犬の墓に、迷わずたどり着けるように、との庄屋たちの思いが伝わってきます。

## ◆紀州街道と粉河街道の分岐点 国道を示す道標

紀州街道を寺内町地域から和歌山方面へ向かうと、粉河街道との分岐点（脇浜町会館南側のＴ字路）にやってきます。その分岐点には1886（明治19）年に大阪府が建てた高さ1.8mほどの道標があります。

正面左に「左粉河街道　犬鳴山不動　粉河道」、正面右に「右国道第廿九号路線　佐野　加太　和歌山道」と刻まれています。その当時は国道29号と呼ばれていましたが、新たに、車が通るための、広くまっすぐな道が造られました。新たな道は、国道16号、国道26号と名前が変わり、かつての国道29号は、石柱にのみ記録として残っています。

## ◆町と村の境目をあらわす石柱 海塚領境界明示標柱

南海貝塚駅西口の交番前に高さ1.5mほどの石柱が立っています。

現在歩道上に鉄の鎖で囲まれていますが、よく見ると「従是東西海塚領」「明治参拾年参月」と文字が彫り込まれています。石柱の位置からは、ほぼ線路の浜側に沿って、当時の貝塚町（江戸時代の貝塚寺内町とほぼ同じ）と麻生郷村海塚との境目があったように見えます。

また、難波―佐野（現在の泉佐野）間に南海鉄道（現在の南海電気鉄道）が開通したのが1897（明治30）年９月のことですから、標柱が建てられた３月にはすでに線路が敷かれ、蒸気機関車が試運転を始めていた時期ではないかと考えられます。

貝塚町と麻生郷村との境は、その頃にはまだ互いに入り組んでいて不便な状況でした。この事態を解消するため、1912（大正元）年11月、貝塚町と麻生郷村との境目を鉄道線路の西側にすることで、町村は合意しました。

さて、では標柱はなぜ建てられたのかということになります。当時の麻生郷村海塚に暮らす人びとにとっては、熱心な鉄道誘致の証し、海塚こそが鉄道建設に協力したという意識の表れだったのかも知れません。貝塚市発展の基礎となる南海鉄道の建設に、地域の人びとの努力が大きな役割を果たしたことは言うまでもありません。

## ◆地域の生活改善に尽力した先人の碑 福原正雄頌徳（しょうとく）碑

市立中央小学校に沿って南北に通る道を、和歌山方面に向かうと、３ｍを超える石碑が見えてきます。

この石碑は福原正雄（1856－1937年）氏の功績をたたえ、地元の人たちの手で、1907（明治40）年に建てられました。

福原氏は福田村（現在の貝塚市福田）に生まれ、1887（明治20）年に麻生中村外（ほか）六ヶ村戸長（こちょう）役場用掛（ようがかり）となり、1897（明治30）年には麻生郷・島組合村長となりました。そして、村の懸案であった麻生井堰（あそいぜき）の建設を1903（明治36）年に果たしました。

麻生井堰は、近木川中流三ツ松付近に設けられた農業用水を引き込むための堰です。しかし、江戸時代から明治にかけて洪水のたびに何度も壊れましたが、福原氏が先頭に立ち、ようやく頑丈な堰を作ることがかないました。

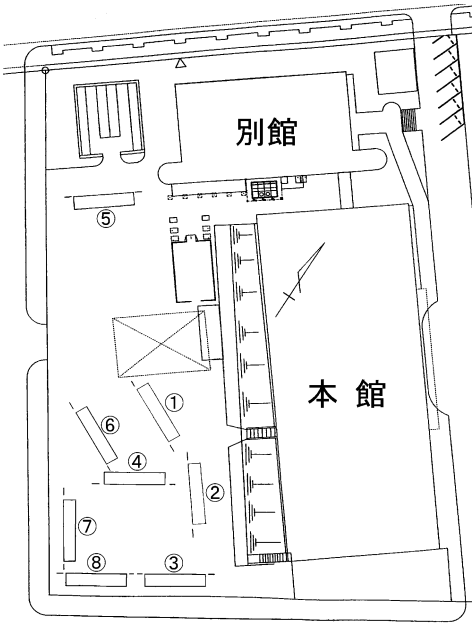
その後も、福原氏は島村小学校（市立東小学校の前身）の再建や、泉南郡畜牛組合（のちの泉南郡畜産組合）の設立、地域の生活条件改善をめざす融和運動にも積極的に取り組むなど、地域の発展に尽力しました。

石碑は地域の人びとのために貢献した福原氏に対し、村民からの感謝を表す記念碑として作られ、111年後の今もなお、当時の人びとの思いを伝えています。

# 加治・神前・畠中遺跡（かじ・こうざき・はたけなかいせき）の調査

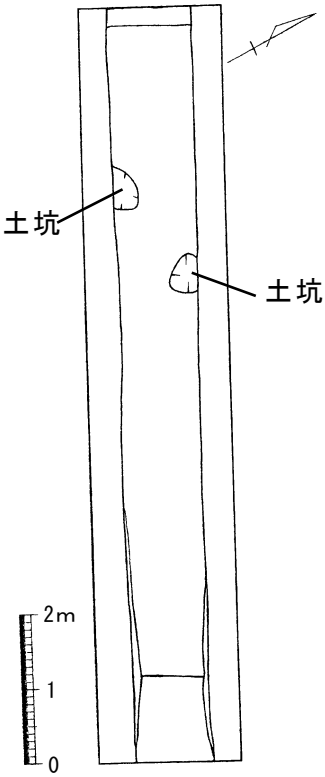
今回の調査は、市庁舎建替に伴うもので、事前に確認調査を実施して遺跡の状況を確認するためのものです。市庁舎裏駐車場の約3,100㎡が対象で、調査は２ｍ×10ｍの調査区を８カ所設定し、合計160㎡の面積で、平成30年８月18日から22日までの５日間で実施しました。

加治･神前･畠中遺跡は、弥生時代から中世にかけての集落跡の遺跡です。市内最大の面積で、特に市役所周辺では奈良時代、平安時代の遺構が発見されています。掘立柱建物、井戸といった遺構を検出し、緑釉（りょくゆう）陶器、須恵器（すえき）製の硯、石帯（せきたい 石製の飾りがついた帯）の飾り石といった古代の役所で使用されたと考えられる遺物が出土している場所でもあります。

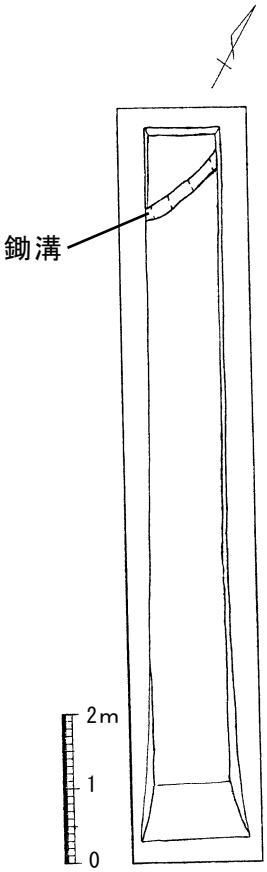


調査区配置図

今回の調査では、農地層を確認し、奈良時代ごろの土師器（はじき）、須恵器、中世の瓦器（がき）などが少量出土しました。遺構は、中世の鋤溝１条、土坑２基を確認しましたが、奈良時代、平安時代の古代の遺構は確認できませんでした。



第６区平面図



第７区平面図

第６区遺構検出状況

第７区遺構検出状況

# 古文書講座　－市内に残る身近な古文書－

## ◆岸和田藩と朝鮮通信使

熱心に聞き入る受講生のみなさん

平成30年６月６日から７月４日にかけて毎水曜日の５回にわたり、「岸和田藩と朝鮮通信使」と題して古文書講座を開催しました。

江戸時代、朝鮮からの外交使節である「通信使」は12回来日しました。その際、岸和田藩は大坂での接待役を合わせて５回行っており、宿泊場所の警備や船着場までの護衛のほか、料理の手配などを担当しました。この時の様子を貝塚に残る当時の庄屋日記などの古文書から、読み解いていきました。

宝暦12（1762）年４月11日の日記には、４月６日に通信使の中官（上官と下官の間）であった崔天宗（チェ・チョンジョン）が自害したとのことで、４月９日に帰国を予定していた通信使一行が大坂に留め置かれていることが書かれています。しかし、２週間後の４月25日の日記には、この事件は自害などではなく、対馬藩（つしまはん）の通詞（つうじ）であった鈴木伝蔵が崔天宗を刺殺し、逃亡したという真実が明らかとなりました。そして、５月２日の日記に、鈴木伝蔵が死罪を仰せ付けられて打ち首になったと記されています。

しかし、この日記はそうした事件の顛末（てんまつ）を詳細に書き留めることに主眼を置くものではなく、大坂に長期間留め置かれている岸和田藩主岡部長住（ながすみ）への心配が綴られています。藩主の無事を村々で祈っているだけでは止まらず、ついには使者を伊勢神宮に代参させています。「殿様」に対して領民たちが示す態度を読み取ることができます。

受講者の方からは「江戸時代における岸和田藩と朝鮮との交流があったとの点で知識がついた」、「帰城が遅れたことに対して、殿様の安否を気づかう庄屋たちの対応がおおげさで、現在の人々には理解しがたい」との声が寄せられています。

## ◆古文書講座57（通算272回～276回）
## 「江戸時代のものづくり」

日　　時：第１回　平成30年10月10日、
第２回　10月17日、第３回　11月７日
第４回　11月14日、第５回　11月21日
いずれも水曜日
午後１時15分～３時45分

会　　場：貝塚市民図書館２階視聴覚室

資 料 代：100円

申込・連絡先は７頁をご参照ください。

江戸時代、貝塚寺内町は政治的には「寺内町」、経済的には「港町」「宿場町」として発展しました。その中であまりスポットの浴びることの少ない職人たちの活動について、地域に残る古文書から明らかにしていきます。

# 水間街道沿いの道しるべ　その７

水間街道は厄除けの「水間観音」として有名な水間寺への参詣道です。今号では、三ツ松に残る１基を紹介します。

**水間街道道標８（三ツ松）**

三ツ松を通る水間街道沿いに立つ「**辻堂**」は、毎年8月14日に行われている大阪府記録選択無形文化財・貝塚市指定文化財（無形民俗）の三ツ松明土行念仏（チャンチャンヒキ）の際に立ち寄り、念仏を唱える場所です。

この小堂にまつられている道しるべは、岸和田と貝塚、三之丞山大師、それぞれの方向が示されています。正面に弘法大師と思われる坐像を浮き彫りにし、その下部に「右　岸和田貝塚／左　三之丞山大師／道／十口丁」という文字が刻まれています。（三之丞山大師は現在の千石堀城（せんごくぼりじょう）址にあった弘法大師をまつるお堂です。）

辻堂（左）と三ツ松明土行念仏の一行（右）

## 特別展「行基(ぎょうき)と貝塚－その生涯と伝承－」

水間寺の開創や永寿池の築造など、市内にさまざまな伝承が残る奈良時代の僧行基の生誕1350年を記念して、行基に関する資料を展示します。

期　　間：平成30年11月４日（日）～12月16日（日）
場　　所：貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館２階）
観　　覧：無料
休 館 日：毎火曜日、11月23日（金・祝）、30日（金）

水間寺（三重塔、本堂）

永寿池

水間寺に残る行基伝説の図

# 参加者募集のお知らせ

幕末から明治維新の激動期を経て、明治時代からはじまる近代化が貝塚でどのように進んできたか、その特徴をお話しいただき、貝塚の「近代化」について考えます。

## ◆第 115 回かいづか歴史文化セミナー
## フォーラム　貝塚の「近代化」を考える

日　時：平成30年10月13日（土）午後１時30分～３時30分
場　所：貝塚市民図書館２階視聴覚室
講　師：高岡 裕之さん（関西学院大学教授）、岡田 光代さん（大阪府立大学准教授）
定　員：50人（定員になり次第締切）／参加費：無料

## ◆第 116 回かいづか歴史文化セミナー
## 講演会「行基と古代の大阪」

特別展「行基と貝塚 - その生涯と伝承 - 」の講演会として、日本古代史をご専門とされている栄原永遠男氏を講師に迎え、古代の大阪、とくに貝塚市域を含む泉州地域（当時は河内国大鳥郡・和泉郡・日根郡、のちの和泉国）での行基の活動についてお話しいただきます。

日　時：平成 30 年 11 月 18 日（日）午後２時 30 分～４時
場　所：貝塚市民福祉センター４階中会議室
講　師：栄原 永遠男さん（大阪歴史博物館館長）
定　員：50 人（定員になり次第締切）／参加費：無料

木造 行基菩薩坐像

## ◆『貝塚市の70年』を読む会26 秋の記念講演会

秋の記念講演会では、『貝塚市の70年』編纂委員長であった高岡裕之さんに登壇いただき、1960年代から90年代において、関西国際空港を中心とする交通網の整備など、貝塚市を含めた地域開発の様子をお話しいただきます。

また、10月と12月以降は、社会教育課職員が講師として、テーマに沿った講座を毎月開催します。こちらもふるってご参加ください。（８頁に日程とテーマを掲載しています）

タイトル：「はばたく貝塚市～関空をめぐる地域開発を中心に～」
日　時：平成30年11月25日（日）午後２時～３時30分
場　所：貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）
講　師：高岡 裕之さん（関西学院大学教授）
定　員：50 人（定員になり次第締切）／参加費：無料

**申　　込**　住所、氏名、電話番号を、電話・ファックス・Ｅメールのいずれかで、下記まで事前にお申込みください。

**連 絡 先**　〒597-8585 貝塚市畠中１丁目12－１（貝塚市民図書館２階）
貝塚市郷土資料室
ＴＥＬ　072（433）7205　/　ＦＡＸ 072（433）7053
Ｅメール　shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

# 文化財講座・セミナー

◆10月

郷土 10日（水）13:15～ 古文書講座57①「江戸時代のものづくり」

郷土 13日（土）13:30～ **第115回かいづか歴史文化セミナー**
**フォーラム　貝塚の「近代化」を考える**

郷土 17日（水）13:15～ 古文書講座57②

歴史 28日（日）14:00～『貝塚市の70年』を読む会25
「貝塚港から阪南港、臨海部の開発」

◆11月

郷土 7日（水）13:15～ 古文書講座57③

郷土 14日（水）13:15～ 古文書講座57④

郷土 18日（日）14:30～ **第116回かいづか歴史文化セミナー**
**講演会「行基と古代の大阪」**

郷土 21日（水）13:15～ 古文書講座57⑤

歴史 25日（日）14:00～**『貝塚市の70年』を読む会26 秋の記念講演会**
**「はばたく貝塚市**
**～関空をめぐる地域開発を中心に～」**

◆12月

歴史 9日（日）14:00～『貝塚市の70年』を読む会27
「住宅開発の進展」

郷土 16日（日）14:00～ **第117回かいづか歴史文化セミナー**
**現地見学会「行基の足跡と水間街道を探訪しよう」**

※ 郷土：郷土資料室　歴史：歴史展示館

郷土資料展示室

企画展
「150年の時を超えて」

10/21(日)

11/4(日)

特別展
「行基と貝塚」

12/16(日)

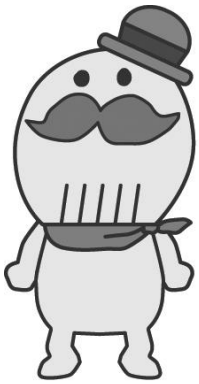
**貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）企画展 －開催中－**

## 「くらしの中にみる戦争」

昭和に入り戦争に向かう緊張感が高まる中、人びとのくらしにも戦争の影がしのびよってきます。当時の出版物、子どものおもちゃなどから戦争への時代変化をみていきます。

会　　期　平成30年12月28日（金）まで
開館時間　午前10時～午後４時（正午から午後１時は閉館）

〈会期中の休館日〉
・毎火曜日
・10月８日(月･祝)
・11月３日(土･祝)
・11月23日(金･祝)
・12月23日(日･祝)
・12月24日(月･振替休)



貝塚市イメージ
キャラクター
つげさん

貝塚市特産品「つげ櫛」をモチーフとしたデザイン。イベントごとが大好き。普段はのんびり、でも祭りには萌えます。

かいづか文化財だよりテンプス66号

KAIZUKA

平成30年10月5日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585　貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126　Fax(072)433-7053
Email：shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行：各1,000部